

目次

官制批判

- 一 資本主義の現状
- 二 全米労働大会の構想と意義

選挙討論

- 三 全米労働大会の選挙討論方針
- 四 グルンワルド政策の選挙討論
- 五 如何に戦つるか
- 六 我々は勝つたか

選挙討論の批判

- 七 選挙討論の不足
- 八 組織の不足

九 世界労働大会の不足

結論

客観的批判

一 資本主義の現状

昨年、資本主義の一般発展の基礎の上に発展し、全資本主義國、全
 米労働大会部門を襲つた。最大の世界経済恐慌と、サザエイト同盟の社
 會主義運動の巨大なる成長とは、躍進しつつある社會主義体制と、構想的
 かつ、ある資本主義体制との間の対立を、全く明瞭にした。(S. P. 四月
 ナイロ) 不斷に續く生産の減退、及び存る労働大衆の窮乏化とこれに依
 る購買力の減少、更に對外貿易の迅速な減少等々となりて現はれた。又
 業恐慌の發展と、これと関連せる農村に於ける大衆的強制帰農、土地収
 入、苛税等の租税公課の加重、強制徴収、小作料増徴の借金、負債等々
 に現はれた。救済労働の窮乏化、今や資本主義諸國に進展しつつある國
 際的経済恐慌は労働大衆に對する帝國主義ブルジョアジエの搾取と抑圧
 の強行にともなひ、自ら資本主義経済体制の破産を明瞭にした。と同時に
 に、生産手段の社會化、搾取の撤滅、働く者の物質的又文化的水準の向上
 を基礎とせるサザエイト同盟に於ける社會主義経済体制の建設は、五ヶ
 年計画の勝利ある實現の三年目を終つた。これは、人々は正
 しく、資本主義社會から社會主義社會への轉換せんとする偉大なる歴史的
 衝動に突き進んでゐるのだ。

この脅威の不正のため、帝國主義ブルジョアジエは益々危険化しつつ、